

米国景気は順調に回復

ポイント① 米国の企業景況感は順調に回復

米国では大規模な財政・金融政策の施行や、新型コロナウイルスのワクチン接種が進展していることから、経済正常化への動きが加速する一方、景気の過熱に懸念を示す考えも強まっているようです。

3月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は、1983年以来の高水準となりました。生産、新規受注、受注残、雇用などが軒並み上昇し、家計や企業からの需要が堅調であることが伺えます。また、パンデミックや寒波を背景にサプライチェーンが混乱していることから、一時的な供給途絶による入荷遅延が起こっており、とりわけ半導体不足は深刻で、自動車生産への影響が出ているようです。

ポイント② 個人消費の回復

3月のコンファレンスボード消費者信頼感指数も、1年ぶりの高水準となりました。経済活動再開への期待が膨らんだことや、経済対策に伴う現金給付を受けて、消費意欲が高まっており、コロナ禍で抑制されてきた潜在需要の顕在化なども期待されており、消費支出は今後大きく回復していく可能性があります。

ポイント③ 雇用回復の期待高まる

3月の米雇用統計によれば、非農業部門の就業者数は前月比91.6万人増加し、市場予想を大きく上回りました。平均時間あたり賃金の伸びは前月比-0.1%となり、事前予想を下回りましたが、レストランの営業再開などに伴って低賃金労働者の雇用が大幅に増加したことが要因で、その結果、失業率も6.0%へ前月よりも0.2ポイント低下しました。

米国景気は順調に回復しており、一部では過熱感への警戒も浮上しており、4月以降の動向に注目が集まりそうです。

図1：米ISM景況感指数と消費者信頼感指数



図2：米国の失業率と非農業部門就業者数

期間：2020年3月～2021年3月、月次

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2020年				
3月	4.4	62.6	15,084	-168.3
4月	14.8	60.2	13,016	-2,067.9
5月	13.3	60.8	13,299	283.3
6月	11.1	61.4	13,784	484.6
7月	10.2	61.5	13,957	172.6
8月	8.4	61.7	14,115	158.3
9月	7.8	61.4	14,187	71.6
10月	6.9	61.6	14,255	68.0
11月	6.7	61.5	14,281	26.4
12月	6.7	61.5	14,250	-30.6
2021年				
1月	6.3	61.4	14,274	23.3
2月	6.2	61.4	14,320	46.8
3月	6.0	61.5	14,412	91.6

(注) 労働参加率 = 労働力人口 / 生産年齢人口

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

4月13日	米消費者物価指数 (3月)
4月15日	米小売売上高、米鉱工業生産指数 (3月)
4月16日	米ミシガン大学消費者マインド指数 (4月速報)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。